



VirusControl

操作マニュアル&チュートリアル

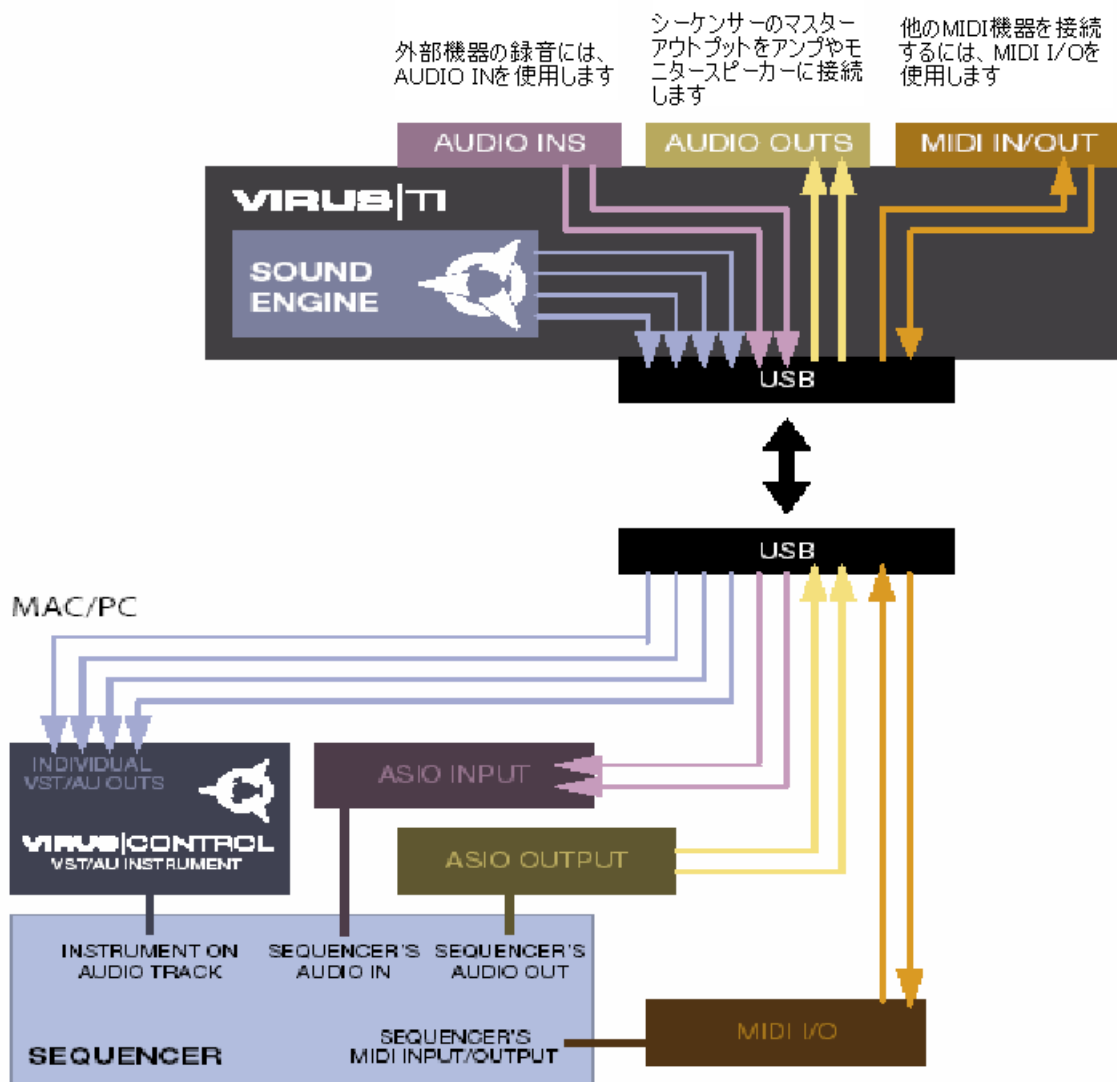
イントロダクション

このセクションの狙いは、トータルインテグレーション(*後述)の概念を理解いただき、VirusControlプラグインの性能を最大限に活かすためのものです。VirusControlの種々のパラメーター機能に関する詳細情報は VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

トータルインテグレーションとは？

トータルインテグレーションとは、ホストシーケンサー内でネイティブ VSTi や AudioUnit ソフトウェアをコントロールするように、ハードウェアシンセサイザーである VirusTI を完全に同期させ、トータルコントロールを可能にすることを示します。

一本の USB ケーブルを使って MIDI データをやり取りするだけでなく、最大 4 系統のステレオオーディ



オーディオデータ(ステレオ 2 系統は Virus 本体からのもの、他のステレオ 2 系統はサウンドカード機能のオーディオデータ)を自在に操ることができます。外部オーディオ信号は、バランスアナログインプット、S/PDIF I/O 経由でエフェクト処理することも、また、ホストシーケンサーにルーティングすることもできるようになっています。高品位の AD/DA コンバーターを搭載している VirusTI は、コンピューターサウンドカード機能も併せ持っています。つまりホストシーケンサーのマスターアウトプットを VirusTI のアウトプットから出力できるうえ、VirusTI の MIDI ポートは他のハードウェアをコントロールするための MIDI インターフェイスとしても使用が可能です。

VirusControl とは?

VirusControl は、ホストシーケンサー内で動作する VSTi / AudioUnit プラグインで、VirusTI 本体の代理ソフトウェアと考えていただければいいでしょう。VirusTI の 16 系統オーディオ/MIDI データを直接ホストシーケンサー内で、あたかもネイティブプラグインを操作するような感覚で扱うことが可能です。VirusTI でコントロール可能な数多のパラメーターは、便利なページ表示にまとめられ、ライブラリ機能を使ってハードドライブにあるパッチを管理できるだけでなく、VirusTI 本体のパッチ管理もできるようになります。

VirusControl を使う理由

近年、多くのミュージシャンが、ソフトシンセやバーチャルインストゥルメントに活動の舞台を移しています。サンプル単位の正確な再生、オートメーションパラメーター、パッチデータのトータルリコール、無限のパッチライブラリ保存機能など、ハードウェアに比べて多くの利点があるためです。ソフトシンセの短所があるとすれば、ソフト自体が重すぎてホスト CPU に負荷がかかりすぎることに、造りのしっかりした専用コントロールサーフェスがないこと...でしょうか。実は、VirusControl と VirusTI を組み合わせることでこの短所を克服できます。VirusTI の壮大な音響を創り出すための複雑な計算はすべて VirusTI 本体で行われるため、コンピューター CPU には負荷がかかりません。世界のシンセフリークが最も楽しみにしているノブ操作は本体側で行い、コンピューターの CPU は他の作業に振り分けることができますというわけです。

動作環境

VirusControl を使用するには、VST2.0 プロトコール/AudioUnit 対応の USB1.1 インターフェイスを有する Windows / Macintosh コンピューターが必要です。開発元としてコンパチビリティを確保するための努力は続けていますが、現状、動作確認されているホストシーケンサーは以下のとおりです:

Mac OS X:

- Apple Logic 7.2 or higher
- Steinberg Cubase SL/SX3.1 or higher
- Ableton Live 5.2 or higher

Windows XP

- Steinberg Cubase SL/SX3.1 or higher
- Ableton Live 5.2 or higher
- Fruity Loops Studio 5 or higher

起動する前に

VirusControlを使用するには、ASIO/Core Audioドライバ、および MIDIドライバと共にコンピューターのハードディスクにインストールされている必要があります。パッケージに同梱されている CD 内の VirusTI ソフトウェアインストーラーを起動して、インストール作業を行います。

ソフトウェアの最新バージョンは下記ウェブサイトをご確認のうえ、ダウンロードしてご使用ください。

<http://www.access-music.de/?go=support>

インストール

Windows XP 環境でのインストール

注: インストーラーが接続するように指示を出すまでは、Virus 本体とコンピューターは接続しないでください。

- 1) "Virus TI Software.msi"ファイルを起動します。
- 2) 表示される指示に従ってください。

ドライバの署名

インストールの最中に何度か警告メッセージが表示されることがあります。これはドライバの署名が Microsoft に承認されていないことを通達するものですが、この警告は無視しても問題ありません。よって[インストールを継続する]をクリックして、作業を続けてください。

「新しいハードウェアが見つかりました」ウィザード

同様に「新しいハードウェアが見つかりました」というメッセージが表示される場合は[キャンセル]をクリックしてウィザードを閉じてください。インストーラーの指示通りに進めば問題は起こりません。インストーラー自体の動きが悪くなった時は、こうした警告メッセージが重複していないか確認してください(ウインドウに隠れている場合があります)。ドライバのインストールが完了すると、次に VirusTI Firmware Installer(ファームウェアインストーラー)が表示されますが、これは VirusTI 本体の OS が最新であるかどうかを確認するためのものです。

注: ファームウェアのインストール中は安定した電源供給ができるように注意してください。またインストールが完了するまで、ノブやキーボードに触れないように注意してください。

ファームウェアのアップデートを行った後はシステムリセットを行いましょう。システムリセットは、2つの [Transpose]ボタンを同時に押しながら[ARP EDIT]ボタンを押すことで簡単に実行できます。インストールが完了しなかった場合、または失敗した場合は、VirusTI 本体をアップデートモードにして、ファームウェアインストーラーを起動します。本体をアップデートモードにするには、一旦、電源ケーブルを外し、[EXIT]ボタンを押しながら電源ケーブルを再度接続します。

「ドライバが見つかりません」のメッセージが表示された場合

環境によっては Windows が自動的にドライバを特定できない場合があります。すべての VirusTI 関連ドライバは以下のフォルダーに格納されています。フォルダーを指定しなければならない場合は、参考にしてください。

C:\Program Files\Access Music\Virus TI\Audiedriver

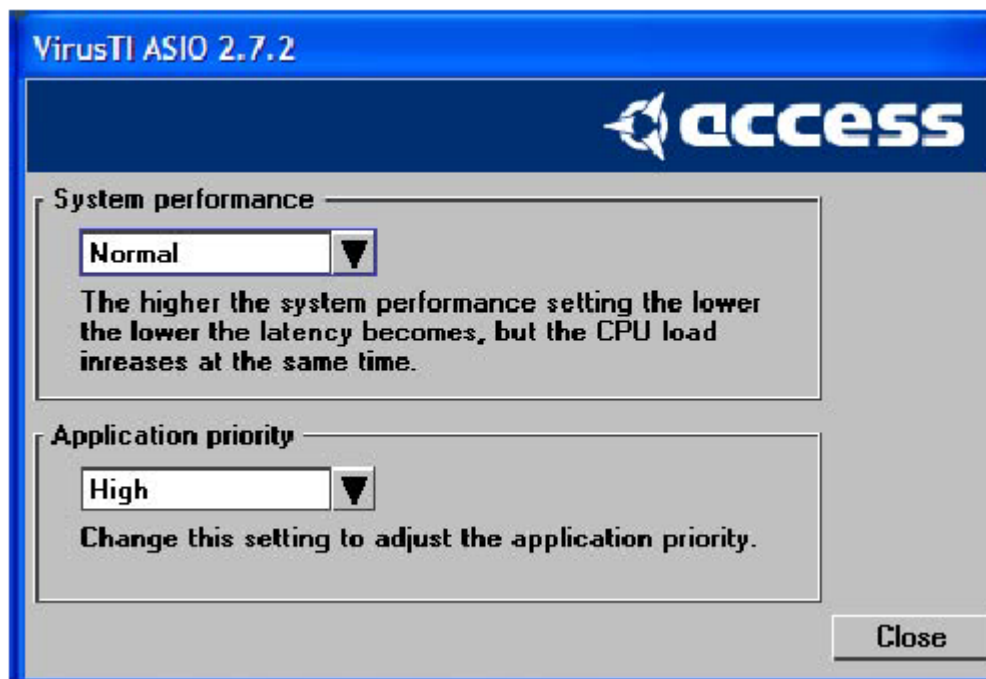
インストーラーを再度、起動する

インストールが完了した後で、再度、インストーラーを起動させたい場合は[スタート]メニューから Access Music/Virus TI folder を指定します。

ASIO のシステムレイテンシーを調整する

VirusTI の ASIO ドライバ設定を開きます。Cubase では以下の要領で行います：

- VST Audiobay を開きます→Virus USB ASIO driver
- [Settings]をクリック
- ASIO タブを開きます
- [System Performance]を調整します



初期設定は[Fast]に設定されています。[Faster]設定では低レイテンシーになりますが、CPU に対する負荷が大きくなります。結果、クリックノイズなどの現象が起こる可能性がありますので、ご使用の環境に合わせて設定してください。

Mac OS X 環境でのインストール

Virus TI をコンピューターの USB ポートに接続します

- 1) “Install Virus TI Software.mpkg”ファイルを起動します
- 2) 表示される指示に従ってください。

必ずとは言いませんが、インストール後にディスクユーティリティを起動して“repair permissions”を実行するのはいい方法です。ドライバインストールが完了すると、Virus TI Firmware Installer(ファームウェアインストーラー)が表示されますが、これはVirusTI本体のOSが最新であるかどうかを確認するためのものです。

注:ファームウェアのインストール中は安定した電源供給ができるように注意してください。またインストールが完了するまで、ノブやキーボードに触れないように注意してください。

ファームウェアのアップデートを行った後はシステムリセットを行いましょう。システムリセットは、2つの [Transpose] ボタンを同時に押しながら [ARP EDIT] ボタンを押すことで簡単に実行できます。インストールが完了しなかった場合、または失敗した場合は、VirusTI 本体をアップデートモードにして、ファームウェアインストーラーを起動します。本体をアップデートモードにするには、一旦、電源ケーブルを外し、[EXIT] ボタンを押しながら電源ケーブルを再度接続します。

スリープモード”Sleep Mode”について

OS バージョンやスリープモードの種類にもよりますが、電源を入れた状態でコンピューターを離れる場合、またはスクリーンセーバーを有効にしている場合、問題が起こりやすいことが知られています。スリープモードから復帰する際に問題が起こりやすいため、コンピューターのスリープモードを無効にしておくことを推奨しています。復帰した後では、クラックノイズやある種のディストーションが起こりやすいと報告されています。

ホストシーケンサーのヒント集

ホストチュートリアルの設定に関するヒントや Tips を参照するのは助けになります。

VirusControl を読み込む

ホストシーケンサーを起動する前に、VirusTI 本体の電源が ON になっていること、および本体とコンピューターが USB 接続されていることを確認してください。ホストシーケンサーが起動すると、VirusControl が他の VSTi/Audio Units 同様の方法でソフトウェアに読み込みます。方法に関してはホストシーケンサーのユーザーマニュアルを参照してください。使用可能な VSTi リストの中に VirusControl を確認できれば OK です (“Access Music” → “Virus TI”)。

ホストシーケンサー内で VirusControl を読み込まれると、VirusControl の進行バーが表示され、TI 本体のディスプレイには「パッチの同期を行っています”Syncing Patches”」というメッセージが表示されます。これは必要なプロセスで、VirusControl の RAM バンクが TI 本体のバンクに同期させます。メッセージが消えてプロセスが完了するまでは、ノブやキーボードを触ったり、シーケンサーをさせたりすることは控えてください。

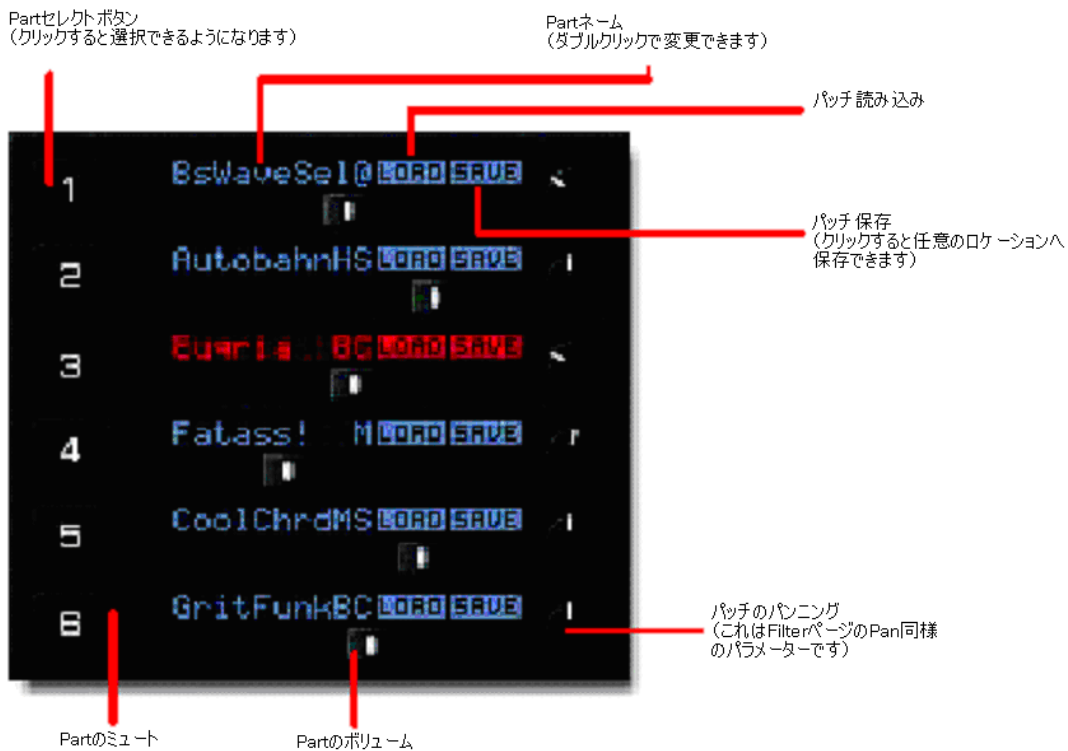
VirusControl のシングルインスタンスは VirusTI の 16 パートをコントロールします。シーケンサー内では複数のインスタンスを開くことはできません。

VirusControl を個々のホストシーケンサーで使用する際は、インストレーション CD に同梱されている、それぞれのシーケンサーに関するチュートリアルを参照してください。

コンセプト

パートステータス

どのページで作業している場合でも、VirusControl 左側には VirusTI の 16 パートのステータスが表示されています。赤字で表示されているパートは、現在エディットされていることを表わします。



ページタブ

VirusControl インターフェイス上部には、「Easy」、「Browser」、「Osc」などと銘打たれたタブがあります。このタブをクリックすると即エディット可能なページにジャンプできます。右の方を見ると「Patch」、「Utility」と表示されたタブがあります。「Patch」タブでは選択されているパートのみをエディットするためのパラメーターが表示されます。「Utility」タブをクリックすると、リモートページにジャンプします。



パラメーター調整

ノブ/スライダ/パラメーターバリューをクリック&ホールド(ドラッグ)すると、自在にパラメーターを変更できます。詳細設定を行う場合は、[Shift]キーを押したまま、パラメーターを変更します。ノブを調整する場合は、マウスをノブから遠ざけ、大きな弧を描くように動かします。

パラメーターを初期設定値に戻す場合は、[Ctrl]キーを押しながら(Mac ユーザーは[Cmd]キー)、クリックします。

ほとんどのページのパラメーターは、マウスをドラッグすることで変更することができるようになっていきます。例えば、リゾナンスとカットオフは Cutoff ノブ中央付近の小さなボックスをドラッグすることでフィルターを同時に調整できます。オシレーター波形は、波形をマウスでつかんでドラッグすることで変更できます。VirusControl ではどのページもエディットすることが楽しくなるような工夫が施してあります。

さらに、ハードウェア本体のノブやボタンを使ってエディットを行いたい場合は、VirusControl 上で即座に反映されます。

パラメーターのオートメーション

ほとんどの VirusControl パラメーターは、ホストシーケンサー上でオートメーションが可能です。オートメーションの方法は、個々のアプリケーションで異なるので、ホストシーケンサーのユーザーマニュアルを参照してください。ホストシーケンサーによっては、現状対応していないパラメーターもあるので、ご注意ください。リストにパラメーターを追加したい場合は、パラメーター上で右クリック(Mac では Alt+Click)し、[Add "parameter" to Automation]を選択します。

オートメーションデータの代わりに、CC データをホストシーケンサーに送信する場合、リモートモードの"Virus Default"を使用することができます(REMOTE ページ参照)。

ボリューム、およびパンニングをオートメーションする場合は少し特別な方法を用います。Apple Logic などのホストシーケンサーでは、コントロールナンバー#7、および#10 をアサインし、データフィルターします。ボリューム、およびパンニングオートメーションを行うには、オートメーション可能なパラメーターリストから任意のエントリーを選択する必要があります。

インフォメーションバー

VirusControl の下部には青字で表示された長方形のボックスがあります。これは、マウスポインターが示しているパラメーターの詳細情報が表示されます。



パッチ/ユーティリティ[Patch/Utility]

このタブは、選択可能なページを表示しています。

エディターページ

イージーページ[EASY Page]

同期作業が完了すると、イージーページにアクセスできるようになります。これはパワフルなエディットページで、3つのソフトノブと複数のエフェクトをアサインできます。ページ中央のコントローラーはフィルターコントロールです。ダイヤルを回してカットオフ周波数を変更し、赤い箱を使ってカットオフとリゾナンスを同時にコントロールします。"Lowpass"をクリックしてマウスを上下すると、フィルタータイプを変更できます。



パラメーターの詳細表示は、マウスポインターをパラメーター上に持っていき、VirusControl 下部にある情報パネルを参照してください。

特定のパラメーターの機能を知りたい場合は VirusTI ユーザーマニュアル内「サウンドパラメーターリファレンス」を参照してください。ユーザーマニュアルの PDF (英文) は [スタート] → [Access Music] → [Virus TI] → [Documentation] で開くことができます (Mac の場合は Applications/Access Music/Virus TI/Documentation)。

ブラウザページ[BROWSER Page]

ブラウザページからは TI 本体のすべてのプリセットを参照/管理できます。



上図のように一度に2つのバンクを参照することも可能です。任意のバンク上にある赤い長方形のボックスをクリックするとブラウズが可能になります。3つのオプション "Virus TI"、"Categories"、"Personal Libraries"から選択します。これらは以下の場所に格納されています。

Windows:

~¥My Documents¥Access-Music¥Virus TI¥Patches¥

Mac:

/Library/Application Support/Access Music/Virus TI/Patches

"VirusTI"は TI 本体の RAM、ROM バンクを示しています。VirusControl では、起動時にエディットされた RAM パッチをチェックします。よって、RAM A-D はハードウェア側のパッチをダイレクトに反映していると考えてよいでしょう。

"Categories"では、任意のカテゴリー順に表示します。マウスポインターをカテゴリー上で動かし、任意のページを選択します。

“Personal Libraries”はパッチフォルダーに保存されたすべてのバンクを含んでいます。ネーム右側に赤い矢印がある場合、サブフォルダーがあり、更にライブラリを含んでいることを示しています。マウスを上を持ってくるとドロップダウンリストが表示されます。Access のサイトから過去にアップロードされた Virus 用のパッチを Patches フォルダーにダウンロードすることも可能です。ブラウザからのアクセスも簡単にできます。

パッチのオーデイション

ライブラリ内のパッチをダブルクリックすると、現在アクティブなパートにアサインすることができます。他の方法としては、Part セクションにドラッグ & ドロップします。パッチをコピーするには、コピー元 Part のパッチネームをクリック + ホールドして、デスティネーション Part にドラッグ & ドロップします。

幾つかのホストシーケンサーではプラグイン用に割り当てられたキーコマンドが存在します。お持ちのシーケンサーが対応している場合は、パッチが選択されるとコンピューターの矢印キーを使って簡単にブラウズできます。

パッチのサーチ機能

何千ものパッチが使用可能な中、サーチ機能はなくてはならない機能です。利用するには虫眼鏡アイコンの右側のスペースをクリックし、入力してください(半角英文のみ)。ネームを記憶している場合はそのネームの最初の文字を入力し[Enter]キーを押します。もしくはお気に入りのサウンドデザイナーの名前、例えば“BC”を入力すると、彼がデザインしたパッチを瞬時に読み出すことができます。

サーチ結果はブラウザウィンドウに表示され、サーチ結果が 128 個以上ある場合、追加パッチはテンポラリバンクに収納されます。参照するには、ブラウザバーの矢印をクリックし、“Search Result”を選択します。

ヒント: パッチはどれでもドラッグ & ドロップで任意のライブラリに追加/移動できます。

ヒント: 2-3 文字入力してランダムサーチを行うと、思いがけないパッチに出会うことができます。是非、試してみてください！

パッチの保存

エディットしたパッチを保存する方法として、以下に 2 通り紹介します：

-Part セクションのパッチネーム横にある[Save]ボタンをクリックします。TI bank、または user library を選択し、上書きしたいスロットにスクロールします。

-TI 本体の RAM バンクに保存したい場合、ブラウザで任意のバンクを選択し、Part の任意のスロットにドラッグ&ドロップします。

注：RAM に保存する場合は、VirusControl は本体側でも保存するように注意を促します。これは、ハードウェアとソフトウェアが常に同期している状態を作るためです。

マルチパッチの保存

16 の Part すべてを一つのマルチ[Multi]パッチとして保存する場合は[STORE]キーを押し、Value 1 ノブを使って、任意の[Destination]を選択します。つまり”Multi Edit Buffer”です。もう一度[STORE]キーを押します。VirusControl の接続を外してから、VirusTI 本体をマルチモードに切り替え、任意の Multi ロケーションに保存してください。

ライブラリの管理

ブラウザが 2 つのライブラリを参照できることには理由があります。一方のパッチを他方にコピー&ペーストしやすいように設計されています。例えば、一つのお気に入りバンクを RAM A バンクに作る場合、最初に VirusTI>RAM A を下のライブラリに持ってきます。上のライブラリでパッチライブラリからブラウザして、お気に入りのパッチをドラッグ&ドロップで、下のお気に入りライブラリスロットに移動させます。

新規にライブラリを作成する

- ・ Virus TI/Patches フォルダー内に新規フォルダ”My Patches”を作成します
- ・ ファイル” My Patches.mid”をこのフォルダにコピー&ペーストします
- ・ ファイルの名前を変更します。例えば”My Patches 1.mid”など
- ・ 上記作業を必要な数だけ繰り返し、番号のみを増やしていきます
- ・ VirusControl を使って、追加コピーを削除していきます

Virus 旧モデルのサウンドをインポートする

旧モデルの Virus を既にお持ちの場合、お気に入りのパッチを VirusTI に移植したいと望んでおられるでしょう。一番手っ取り早い方法としては個々のバンクをシーケンサーに Dump し、それぞれのバンクを MIDI ファイル(.mid)としてエクスポートします。作業が完了したら、この MIDI ファイル(.mid)をパッチフォルダにコピーします。次に VirusControl を起動させると、これらのバンクは[Personal Libraries]の中で参照することができます。

また、SoundDiver でパッチの管理を行っておられる方に関しては、これも MIDI フォーマットでエクスポートすることが可能です。ただし、VirusControl では最大 128 個のサウンドしか扱うことができないので、その数を超えてしまうと余剰分は削除されてしまいます。SoundDiver を使ってエクスポートする際には、128 個以下のパッチ毎に分けてエクスポートしてください。

SoundDiver のライブラリをエクスポートする

- ・ SoundDiver のライブラリを開きます
- ・ エクスポートするパッチを選択します
- ・ File/Export のフォーマットは MIDI File を選択します
- ・ [Patches]フォルダーに(.mid)ファイルを保存します

SoundDiver ソフトウェアは、以下のサイトから無償ダウンロードが可能です：

<http://www.access-music.de/?go=sdupdates>

選択されたパッチに、特定されたロケーション(例えば A000 など)がない場合、エクスポートされません。パッチのロケーションを特定するには、Parameter ボックスのロケーションフィールドの”E”をクリックし (View で有効になっていること)、ロケーションを入力します。他の方法としては、ライブラリから Device ウィンドウの任意の RAM バンクロケーションヘドラッグ & ドロップします。この方法では、個々のパッチに自動的にロケーションが割り当てられ、エクスポートできるようになります。

ライブラリ内のパッチを組み替える

パッチを上書きすることなく RAM バンク内/ライブラリ内のパッチを組み替える方法は幾つか考えられます。

アルファベット順にソート[Sort Alphanumerically]

バンク内で右クリック(Mac = Alt+Click)し、”Sort alphanumeric”を選択します。

スワップ[Swap]

同バンク内にあるスロットのパッチを他のスロットヘドラッグ & ドロップします。こうすると、パッチは入れ替わります。また[Shift]キーを押しながらクリックして複数のパッチを選択し、(Mac = Cmd+Click)ドラッグ & ドロップすると、上記同様、複数のパッチが入れ替わります。

コピー[Copy]

ライブラリから他のライブラリへパッチをドラッグ & ドロップすると、コピー機能を使って移動したことになります。

エクスプローラー方式のパッチ管理

Patches フォルダの中では、ライブラリを個々のフォルダーに分けて管理するといいいでしょう。VirusControl のライブラリメニューをクリックすると、パッチをツリー状に参照することができます。

パッチの名前を変更する

パッチの名前を変更する場合(RAM、またはユーザーライブラリのみ)、[Alt]キーを押しながらクリックすると、ネーム部分が青くハイライトされます。ここで、任意のパッチネームを入力しましょう。

パッチを削除する

必要ないパッチの上で右クリックし、“Delete selected patches”を選択するとそのパッチをライブラリ

から削除することができます。これは TI 本体の RAM、または ROM バンクでは実行することができません。これらのライブラリでは、このオプションは選択できないようになっています。

アンドウ[Undo]

作業を間違った場合は、ライブラリ上で右クリック(Mac = Alt+click)し、“Undo last operation”を選択します。

ヒストリー[History]

パートに割り当てられたパッチのうち、過去 10 個まで記憶できます。過去のリストにアクセスするには Part バーのパッチネーム上で右クリックします。

最後の作業をアンドウする

過去の作業を復帰できる機能は、現場では非常に有り難いものです。パラメーターを下手にいじってしまい、パッチを無駄にしたり、ブラウザで不要な移動を行ってしまったり…。こうしたアクシデントに備えて、一つ前の作業を復帰できるアンドウ機能を備えています。アンドウを行うには、ウィンドウ内で右クリックし、“Undo last operation”を選択します。するとアクシデントが発生する前の状態に戻すことができます。

“Patch x”に戻る

偶然、新しいパッチを選択してしまった場合、直前まで Part で使用していたパッチに戻すことができます。ブラウザ内で間違ったパッチを選択してしまった場合などのアンドウ機能であると考えていいでしょう。つまり、VirusControl ソフトウェアが Part 毎に過去選択された 16 個のパッチをすべて覚えているということになります。

過去に使用されたパッチ

Part 内で新規パッチを選択すると、VirusControl ソフトウェアは、最大 10 個のパッチリストを作成します。結果、パッチをブラウズする際、ステップを戻すことができます。上記「戻る”Revert”」機能のように、各々16 個の Part は、それ自体のリストを持っています。

注:このオプションは Part のブラウザウィンドウ内でパッチを選択した場合のみ適用されます。



OSC ページ

VirusTI のミキサーセクション、およびオシレーターに適切なパラメーターをすべて見つけることが可能です。2 個の大きなダイヤルは、オシレーター1、および 2 を表わしています。各々の中心にあるグラフィックは現在選択されている波形を表わします。マウスで波形をつかみ、動かすと、サイン波<>ノコギリ波<>パルス波で「モーフィング＝変形」できます。ダイヤル下のパルス幅ディスプレイにある小さな正方形を水平方向に動かしてみて、パルス波の幅にどのように影響するか確認しましょう。

シェイプ”Shape”ダイヤルを中心より左側に回すと、グラフィック真下に現在選択されているスペクトル波形を表示されます。波形を上下方向にドラッグすると、利用可能な波形をスクロールできます。また、”Wave xx”真下にある小さな矢印をクリックすると、波形のリストが表示されます。



オシレーターをハイパーソウ“HyperSaw”モードに切り替えると、波形の代わりに複数の赤い縦線が表示されます。これは、HyperSaw オシレーター内の個々のノコギリ波を表わします。密度が増加すると縦線の本数が最大 9 本に迫ります。また、デチューンスプレッド“Detune Spread”が増加すると、縦線の間隔は大きくなります。これをマウスでドラッグして動かしてみましょう。上下方向の動きでは密度が変化し、左右方向の動きではデチューンスプレッドが変化します。対角線方向の動きで2つのパラメーターを同時に調整できます。

ウェーブテーブル“Wavetable”モードでは、グラフィックディスプレイには現在のインデックス“Index”ポジション上に、ウェーブテーブルのネームが表示されます。ウェーブテーブルのネームをクリック&ドラッグすると、素早くスクロールすることができます。ダイヤル下のウェーブテーブルのネームをクリックすると、利用可能なテーブルリストを開きます。

略称“Vel”、つまり“Vel>Osc1”はベロシティ“Velocity”を意味します。パラメーターに関する詳細情報を参照するには、マウスポインターをパラメーター上に持っていき、VirusControl 下部にあるインフォメーションバー表示を確認してください。

パラメーター機能に関する、より細かい情報を得たい場合は、VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

フィルター“FILTER”ページ

フィルター、およびアンプに関するすべてのコントロールを行うセクションです。2 つの大きなダイヤルは VirusTI のフィルターを表しています。ここでカットオフ周波数とリゾナンスレベルコントロールを行います。Easy ページにも同様のコントロールが見られますが、ここではカットオフは外側のダイヤルで、

リゾナンスは異なるコントローラーで調整します。



マウスで小さな正方形のボックスをつかんで、両方のパラメーターをスイープすることも可能です。

[Env Amt]と[Vel]の間にある銀色のボタンをクリックすると、フィルターエンベロープモジュレーションの極性を切り替えることができます。

キーボードグラフィックをドラッグすると、キーフォローベースキーを調整できます。

フィルターリンク”FILTER LINK”ボタン

このボタンは、両フィルターのリゾナンス”Resonance”、エンベロープアマウント”Env Amt”、キーフォロー”Keyfollow”コントロールをリンクします。つまり、一つを調整すると他のフィルターの同じパラメーターを同様に動かします。これは、VirusTI ハードウェアの[Filt1]と[Filt1 Select]ボタンを押すのと同じ働きをします。

エンベロープ[Envelopes]

エンベロープステージを調整するには 2 つの方法があります。一つはノブを回す方法、もう一方は赤い正方形ボックスをドラッグする方法です。正方形をドラッグする場合は、上下方向か、左右方向に調整します。

ステップ	セグメント	方向
1	アタック	左右方向
2	ディレイ	左右方向
3	サスティーン	上下方向
4	スロープ(タイム)	上下方向
4	リリース	左右方向

パラメーターに関する詳細情報を参照するには、マウスポインターをパラメーター上に持っていくと、VirusControl 下部のインフォメーションバーに表示されます。パラメーター機能に関する、より細かい情報を得たい場合は、VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

LFO ページ



VirusTI の 3 つの LFO コントロールをするページです。それぞれの LFO の波形を選択するには 3 つの方法があります。

- 1) メインになる波形のボタンをクリックする方法
- 2) 波形のネームをクリックし、上下方向にドラッグする
- 3) 波形のグラフィックをクリックし、上下方向にドラッグする

クロックモードは、“Clock”ボタンをクリックすると有効になります。または、CLK “OFF”ボタンをクリックし、上下方向にドラッグすると有効になります。

クロックの解像度はCLK 値をドラッグすることで調整できます。またはLFOレート/クロックの解像度はナンバーディスプレイをクリックして上下方向にドラッグすることで調整します。

LINK ボタン

これらのボタンは 2 つの隣接したパラメーターをリンクします。一方が調整されると他方が同期して動きます。

パラメーターに関する詳細情報を参照するには、マウスポインターをパラメーター上に持っていくと、VirusControl 下部のインフォメーションバーに表示されます。パラメーター機能に関する、より細かい情報を得たい場合は、VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

MATRIX ページ

最大6つのソースを選択し、18個のデスティネーションを变調することができます。赤いバーをクリックすると選択可能なソースとターゲットパラメーターのメニューが開きます。



パラメーター機能に関する、より細かい情報を得たい場合は、VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

ARP ページ

このページではアルペジエーターに関するすべてのパラメーター設定を行うことができます。勿論、パッチ毎にユーザーのカスタムパターンを作ることも可能です。



パターンエディター”Pattern Editor”

パターンエディターコントロールは、“Pattern = User”を選択した場合のみ有効になります。縦の赤いバーは、ユーザーのデフォルトパターンの有効ステップを表しています。デフォルト設定では奇数番号のみが有効ステップになっています。バーの上にある番号ボタンを使って、ON/OFF を切り替えます。赤い番号はアクティブ(有効)であることを示しています。

バーの高さはベロシティ値を示しています。バーの幅はステップの長さを表わします。

ベロシティを調整するには 2 通りの方法があります：

- 1) ステップの上のノブを調整する
- 2) バーそのものをクリックし、上下方向にドラッグする

同様に、ステップの長さを調整するには 2 通りの方法があります：

- 1) ステップの下にあるノブを調整します
- 2) バーそのものをクリックし、左右方向にドラッグします

1ステップの長さは絶対的なものではありません。これは、次のアクティブなステップの近さによって相対的に変化します。例えば、任意のステップの前にあるステップを無効にすると、バーの幅は広がります。ステップ間の「レガート」結果を得るためには、幅を最大に設定してやりましょう。

エンド”End”



デフォルト設定の 32 ステップ以内でパターンを作る場合は、”END”タブをドラッグして任意のポジションに設定します。例えば、16 ステップのパターンを作る場合はステップ 16 と 17 の間に”END”タブを持ってきます。

パラメーターに関する詳細情報を参照するには、マウスポインターをパラメーター上に持っていくと、VirusControl 下部のインフォメーションバーに表示されます。パラメーター機能に関する、より細かい情報を得たい場合は、VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

FX ページ

ここでは VirusTI のエフェクト”Effects”セクションに関するすべてのコントロールがあります。



パラメーターに関する詳細情報を参照するには、マウスポインターをパラメーター上に持っていくと、VirusControl 下部のインフォメーションバーに表示されます。パラメーター機能に関する、より細かい情報を得たい場合は、VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

COMMON”COMMON”ページ

ここでは、すべてのパフォーマンスパラメーター、例えばポリフォニー/モノフォニーの切り替え、ピッチバンドのレンジ、さらにバージョン情報などを設定するページです。

メインアウト Main Out

現在選択されている Part のアウトプットチャンネルを設定します。VirusTI 本体の 2 系統ステレオ USB アウトプット、または 3 系統アナログアウトプットから選択できます。アナログアウトプットを選択すると (Out1/2/3L+R)、VirusTI からのオーディオ信号はシーケンサーには送られなくなります。VirusTI トラックの音を他のプラグイン同様、出力したい場合はアウトプットを USB に設定してください。

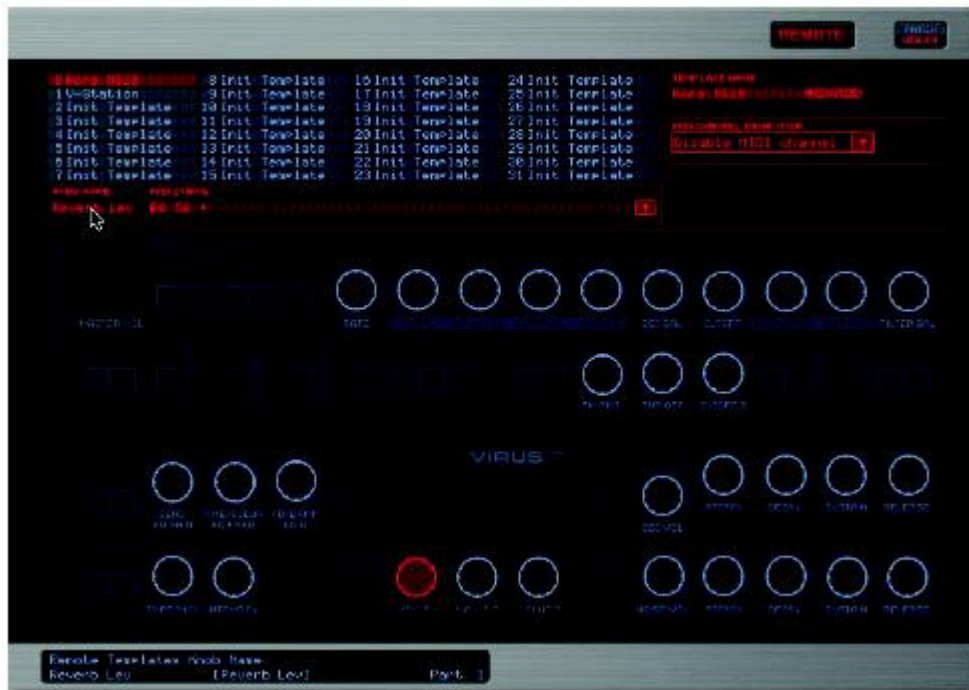
サウンドカード機能としての追加アウトプットは使えなくなることをご注意ください。これは、より多くの再生帯域を必要とするからです。

パラメーターに関する詳細情報を参照するには、マウスポインターをパラメーター上に持っていくと、VirusControl 下部のインフォメーションバーに表示されます。パラメーター機能に関する、より細かい情報を得たい場合は、VirusTI ユーザーマニュアルを参照してください。

REMOTE ページ

このページでは、お気に入りのソフトウェアプラグイン/ハードウェアシンセ専用のテンプレートを作成できます。コントローラーは VirusTI 本体のノブやボタンになります。TI 本体にも 32 個のテンプレートを保存できるうえ、主要プラグインの既成テンプレートも搭載しています。リモートページにアクセスするには、GUI 右上の”Patch/Utility”をクリックします。VirusControl が必要になるのは、新規にテンプレートを作成するとき、もしくは新しいテンプレートをライブラリに追加するときのみです。リモートモードは、スタンドアロンモードでも利用できます。

最新のテンプレートはウェブサイト www.access-music.de からダウンロードすることができます。新しいテンプレートを随時増やしているの、時々チェックしてみるのがいいでしょう。素晴らしいテンプレートが出来上がったときは、support@access-music.de まで送ってください。世界中の VirusTI ユーザーにシェアすることができるかもしれません。



リモートモード

VirusTI のリモート機能を利用するには、まず本体をリモートモードに設定する必要があります。これは、TI 本体の SHIFT+CONFIG ボタンで実行できます。

テンプレートを選択する

リモートテンプレートを選択するには、リモートページ上部にある 32 個のテンプレートの一つをダブルクリックします。これらのテンプレートは、VirusTI 本体の RAM に保存されているテンプレートになります。



また、“LOAD”タブをクリックすると、ハードディスクに保存されているライブラリの中からテンプレートを選択することも可能です。こうして選択されたテンプレートは、それ以前のテンプレートを消去し、現在のテンプレートに上書きされます。

リモートテンプレートの作成

- 1) テンプレートを選択します
- 2) ノブをクリックします
- 3) ノブにネームを付けます(ノブネームエリアをクリック)
- 4) コントロールする MIDI スtringを入力します
- 5) テンプレートネームを付けます(テンプレートネームエリアをクリック)
- 6) 他のノブについても上記作業を繰り返します
- 7) 保存します(Save タブをクリックし、保存場所を指定します)

MIDI スtringの書き方

サードパーティのプラグインに関しては、まず、ユーザーマニュアルを参照し、各パラメーターのコントロールナンバーを参照します。

例えば、プラグインソフトウェアのカットオフを VirusTI 本体のカットオフノブに割り当てる場合、マニュアルを参照したところ、MIDI#70 だったとします。この場合、リモートページの”MIDI STRING”エリアに”B0 %70*”(半角で”B・ゼロ・スペース・%・70”)と入力します。



基本的に”B0”は MIDI の CC コマンドを示し、”0”は MIDI チャンネル 1 を意味します(16 チャンネルは 0-15 で表示)。さらに、”%70”は”ナンバー70”を意味し、”*”は割り当てられるノブを示しています。記号表示は面倒かもしれませんが、慣れればそれほどでもありません。コンピューターの[ENTER]キーを押して確定します。

[ENTER]キーを押して MIDI スtringを確定すると、テキストは 16 進法に変換されます。現在のノブに割り当てられたパラメーターなどの詳細情報は、MIDI スtringテキストエリア下の部分に表示されます。

ソフトノブをアサインする

VirusTI のディスプレイには、3 つのノブに割り当てられたパラメーターの名前が表示されます。

MIDI チャンネル動作

MIDI スtringによって特定のチャンネルにコントロールメッセージが送られるか否かを選択します。または MIDI スtringは無視され、メッセージは現在選択されているチャンネルに送信されます。

ヒント集

プリロール”Pre-roll”

他の VSTi/AudioUnit の場合と同様に、ソングの最初の部分に、2 小節ほど空白の小節を入れるのはいいアイデアです。こうすれば、最初の音符が確実に演奏されるようになります。

レイテンシーフリーモニタリング

システムが許容するだけレイテンシーを抑えたとしても、レスポンスが悪いと感ずることがあるでしょう。Common ページから、Part のメインアウトプットを Out1 L+R に設定してみましょう。こうすると、この Part の USB オーディオはバイパスされ、レイテンシーを感じることなく録音/再生を行うことができますようになります。トラック録音が終わった時点で、メインアウトプットを USB ポートに戻します。でないと、シーケンサーのディレイ修正機能によって、録音されたトラックのみが突っ込み気味に再生されることになります。

他のプラグインやオーディオトラックをバウンス、またはフリーズさせる

他のプラグインやオーディオトラックをバウンス/フリーズしたい場合、VirusControl プラグインをバイパ

スさせるのがよいでしょう。

パートボリュームに関する推奨事項

VirusTI では、ダイナミックレンジの広いサウンドを作ることができます。通常、短い音像(アタック時の音など)ではボリュームは大きくなりやすく、不要なクリックノイズを引き起こします。Virus では、多くの業務用機材がそうであるように、こうした物理的な限界に左右されず、非常に広いダイナミックレンジを保障します。Part 毎の音量は、演奏される音の数に依存するので、単音で発音された音は音量レベルでは比較的low感じられます。VirusControl の Part ボリュームを上げる代わりに、出力側の音量レベルをチャンネルゲインで調整するか、リミッターやコンプレッサーなどのアウトボード機器を使うことも考慮に入れておきましょう。

Virus TI OS Revision 1.2 に関する補足

Virus TI OS Revision 1.2 について

VirusTI の最新 OS をインストールしていただきありがとうございます。

TI OS1.2 は、総合メンテナンスリリースに当たります。インストーラーパッケージには、VirusTI ハードウェア、ドライバ、VirusControl プラグイン、およびテキストドキュメントが含まれています。さらに Apple Logic、Ableton Live、Steinberg Cubase におけるチュートリアルも同梱されています。チュートリアルでは、デモセッションを盛り込み、理解しやすいように書かれたテキストガイドが付属しています。スタジオ/ライブ環境で VirusTI を使用する場合のセッティング方法など便利な情報が満載です。

さらに、VirusControl に関する 25 ページ分のチュートリアルでは、バージョン 1.1/1.2 でのリモートモードに関する便利なヒント&Tips 集、ショートカット、レッスンなども含まれています。

バージョン 1.2 における新機能

ダイレクトモニタリング

Mute ボタン下にある Part バーの新しいボタンは、「D」と表示されますが、これはダイレクトモニタリングを示しています。これはアウトプットの割り当てをリアルタイムで行うものです。ダイレクトモニタリングを使うと、任意のアウトプットからアナログアウトプットに切り替えることができます。Virus のパッチを録音する際にはレイテンシーを最小限に抑えることができます。録音を済ませた後はダイレクトモニタリングを無効にしなければなりません。シーケンサーのレイテンシー補正機能のため、突っ込み気味に再生されるためです。



VU レベルメーター

Part バーの左側には、VU レベルメーターがあり、どの Part で演奏されているか一目で分かります。レベルメーターは受信する MIDI イベントに反応します。よって、パッチのリリースフェイズを反映しているわけではありません。

バージョン 1.1 における新機能

リモートモード

リモートモードでは、VirusTI は他のインストゥルメントのユニバーサルリモートコントローラーとして動作します。それぞれのテンプレートにおいて、コントローラーサーフェスは、他のプラグイン/ハードウェアシンセ専用に変更されます。また自分でプログラムしたオリジナルのテンプレートを作成し、他のユーザーとシェアすることができます。詳細は VirusControl チュートリアルを参照してください。

112 個の追加マルチパッチ

16 個のマルチプログラムに加えて、16 個のシングル Part を 1 個のマルチプログラムとする、埋め込みスタイルのマルチプログラムが追加されます。VirusTI OS1.1 では 112 個のマルチプログラムを追加しています。これはシングルモードのパッチ RAM A-D、および ROM A-Q にリファレンス保存します。追加マルチパッチは、プログラムナンバー17-127 に保存されています。

ネームでサーチする

ネームによるサーチは、ネーム、あるいはネームの一部でパッチを検索します。さらに、お気に入りサウンドデザイナーのシグネチャーパッチを検索するにも、この新しい機能を利用できます。詳細は VirusControl チュートリアルを参照してください。

オリジナル値のディスプレイ表示

VirusControl では、パラメーターを動かす際、パッチのオリジナル値をインフォメーションバーに表示するようになりました。詳細は VirusControl チュートリアルを参照してください。

アダプティブソフトリミテッドアルゴリズム

アウトプットはすべてソフトリミッターアルゴリズムの構造が組み込まれています。Virus の精巧なアルゴリズムは、出力がヘッドルームを超えてもクリッピングしません。アルゴリズムは信号の透明感を保ち、音に色づけしません。とはいえ、過度にクリップしている信号は、処理が間に合わず、歪むこととなります。Virus 独自のソフトクリップした出音は、粒の荒いデジタルクリップした音ではなく、真空管の音を連想させるマイルドな音となります。

チュートリアル

ハードディスクには新規に作成されたチュートリアルフォルダーが準備されています。これはデモセッション、英文によるチュートリアルを含みます。これは、VirusTI とシーケンサー毎の使用法が書かれた大変便利なものです。

Mac ユーザーは以下のフォルダーを参照：

/Applications/Access Music/Virus TI/Documents

Windows ユーザーは以下のフォルダーを参照：

Start Menu: Access Music¥Virus TI¥Documentation

Access Music のウェブサイト: www.access-music.de

このチュートリアルについて

以上、当チュートリアルは最新バージョン Access Virus TI 1.2.1 を基本に制作されています。
ソフトウェアインストーラーは、VirusTI シンセサイザーのアドバンスド・トータル・インテグレーション機能を最大限に引き出すコンポーネントを含んでいます。

Access Music では定期的に OS アップデートを行っています。

動作環境:

Macintosh:

- Mac OS X バージョン 10.4 以上の PowerMac
 - VST / Audio Unit 対応のシーケンサーソフトウェア
 - HDD 上に最低 60 MB 以上のフリースペース
 - Mac OS Extended Format (HFS+) フォーマットドライブ/パーティション
 - 512 MB 以上の RAM
 - CD-ROM ドライブ、またはインターネット環境
 - 256 色以上、解像度 1024 x 768 のディスプレイモニター
- UNIX ファイルシステム(UFS)のフォーマットドライブ/パーティションには非対応

Windows:

- Windows XP Home SP2、または Windows XP Professional SP2
- VST 対応のシーケンサーソフトウェア(以下参照)
- HDD 上に最低 60 MB 以上のフリースペース
- 512 MB 以上の RAM
- CD-ROM ドライブ、またはインターネット環境
- 256 色以上、解像度 1024 x 768 のビデオカード
- 現行バージョンでは 64 ビットシステムには非対応

対応が確認されている主要シーケンサー:

以下に表記しているのは現在対応しているシーケンサーとバージョン情報です。これ以外のバージョンでも動作する可能性はありますが、すべての機能に対応できるわけではありません。

Macintosh:

- Apple Logic 7.2.1 以上
- Steinberg Cubase SX/SL 3.1 以上
- Ableton Live 5.2 以上

Windows:

- Steinberg Cubase SX/SL 3.1 以上
- Ableton Live 5.2 以上
- Image Line FL Studio 5 以上

リソース:

詳細情報は、以下のフォルダーに格納されています。

Macintosh:

/Applications/Access Music/Virus TI/Documents

Windows:

Use the Access Music entry in Start Menu

最新の VirusTI OS バージョン:

<http://www.access-music.de/?go=update>

ヘルプデスク(英語・独語のみ):

<http://www.access-music.de/?go=support>

Virus に関する FAQ:

<http://faq.access-music.de>

Virus TI is a registered trademark of Access Music GmbH. All other trademarks are property of their respective owners. © 2005-2006 Access Music GmbH. All rights reserved.